新制作
New production

トリスタンとイゾルデ

Tristan und Isolde

オペラパレス｜ 5 回公演 ｜ 全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

初　演：　1865 年6月10日　バイエルン宮廷歌劇場
台本・作曲：リヒャルト・ワーグナー　Richard Wagner（1813-1883）

演目選定にあたって

2010/2011シーズン芸術監督・尾高忠明が特に愛するドイツ後期ロマン派の作曲家ワーグナー円熟期の作品で、最高傑作と称えられています。オペラでは様々な愛が悲劇・喜劇の形で描かれていますが、これほど、身を焦がすような愛と苦悩を歌いあげた作品は少なく、ワーグナーの魔力ともいわれる魅力を全身で感じていただけることでしょう。現在実現しうるであろう最高のワーグナー歌手陣をまとめ上げるのは、新国立劇場ピットに 12年ぶりの登場となる大野和士です。スタイリッシュで、時に衝撃的な演出で作品から新たな魅力を引き出すイギリスの人気演出家デイヴィッド・マクヴィカーが新国立劇場に初登場です。

作品解説

ワーグナー作品に共通するテーマとなっている「芸術（愛）による全世界の救済」の思想が詰まった壮大な恋愛悲劇。中世ケルト伝説や中世宮廷詩人たちが伝えた叙事詩をもとに、作曲家自身が体験した裕福なパトロンの若妻との禁じられた愛も大きく影響したといわれています。ワーグナーは自らのオペラ作品を楽劇と呼び、ひと幕中にメロディーがとまることなく終幕まで流れつづける“無限旋律”や、特定の登場人物や状況を示すための“ライトモティーフ”を用いましたが、『トリスタンとイゾルデ』でもこれらをふんだんに効果的に使用しています。単独で演奏されることも多い前奏曲や、クライマックスの〈イゾルデの愛の死〉は特に有名で、“トリスタン和音”と呼ばれる不安定で不思議な響きの和音が、官能的で甘美なうねりを呼び、聴くものをカタルシスに導きます。

あらすじ

伝説上の中世。アイルランドの王女イゾルデは敵対するイングランド・コーンウォールのマルケ王との政略結婚のため、王の甥トリスタンが漕ぐ船に乗って護送される。かつての婚約者の仇でもあるトリスタンに密かに心惹かれるイゾルデは、船上で服毒心中を図るが侍女ブランゲーネは毒薬の代わりに愛の媚薬を手渡したため、それを飲んだトリスタンとイゾルデは瞬く間に熱烈な愛に陥る。マルケ王の妻となったイゾルデだが、トリスタンとの逢引きが続く。しかし、侍女の警告も空しく密会の場に王が現れる。トリスタンは王の家臣メロートの剣によって瀕死の重傷を負うが、従者クルヴェナールに連れられ自分の城に戻りイゾルデを待つ。ようやくイゾルデが到着するが、トリスタンは愛するイゾルデの腕の中で息絶える。媚薬の仕業と知って２人を許そうと王一行がやってくるが、イゾルデもトリスタンの後を追って果てる。

R.ワーグナー

トリスタンとイゾルデ

Tristan und Isolde / Richard Wagner

全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

指　揮…… 大野和士
Conductor　Ono Kazushi

演　出…… デイヴィッド・マクヴィカー
Production　David McVicar

美術・衣裳…… ロバート・ジョーンズ
Scenery and Costume Design　Robert Jones

照　明…… ポール・コンスタブル
Lighting Design　Paule Constable

振　付…… アンドリュー・ジョージ
Choreograph　Andrew George

トリスタン…… ステファン・グールド
Tristan　Stephen Gould

マルケ王…… ギド・イェンティンス
König Marke　Guido Jentjens

イゾルデ…… イレーネ・テオリン
Isolde　Iréne Theorin

クルヴェナール…… ユッカ・ラジライネン
Kurwenal　Jukka Rasilainen

メロート…… 星野 淳
Melot　Hoshino Jun

ブランゲーネ…… エレナ・ツィトコーワ
Brangäne　Elena Zhidkova

牧童…… 望月哲也
Ein Hirt　Mochizuki Tetsuya

舵取り…… 成田博之
Ein Steuermann　Narita Hiroyuki

若い船乗りの声…… 吉田浩之
Stimme eines jungen Seemanns　Yoshida Hiroyuki

合　唱…… 新国立劇場合唱団
Chorus　New National Theatre Chorus

管弦楽…… 東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra　Tokyo Philharmonic Orchestra

2010.12/25（土）　2：00　2011.1/4（火）　2：00
12/28（火）　5：00　1/7（金）　2：00
1/10（月･祝）2：00

オペラパレス

【チケット料金（税込）】
S：26,250円・A：21,000円・B：14,700円・C：8,400円・D：5,250円
【前売開始】2010.7/24（土）

トリスタンとイゾルデ

Tristan und Isolde / Richard Wagner

指揮：大野和士

Conductor : Ono Kazushi

東京生まれ。東京芸術大学指揮科卒業後、バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年にイタリア「トスカニーニ国際指揮者コンクール」優勝。90年クロアチアのザグレブ・フィル、96年ドイツのバーデン州立歌劇場、2002年にはベルギー王立歌劇場（モネ劇場）の音楽監督を歴任。2008年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者に就任し、翌年フランス批評家協会によるクロード・ロスタン賞を受賞。リヨンでは10年カイア・サーリアホ『エミリー』（世界初演）、『ルイザ・ミラー』『パルジファル』などが予定されている。07年メトロポリタン・オペラにデビュー。同年デビューしたミラノ・スカラ座では、08年『マクベス』で日本人指揮者として初めてヴェルディを振った。メトロポリタン・オペラでは10年『さまよえるオランダ人』を予定している。08年には48歳の若さで紫綬褒章を受章。新国立劇場には1998年『魔笛』以来、待望の再登場となる。

演出：デイヴィッド・マクヴィカー

Production : David McVicar

グラスゴー生まれ。ロイヤル・スコティッシュ・アカデミーで学ぶ。これまでに英国ロイヤルオペラ、シャンゼリゼ劇場、モネ劇場、マリインスキー劇場、メトロポリタン歌劇場、フランクフルト・オペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、グラインドボーン音楽祭、ザルツブルク音楽祭、シカゴ・リリック・オペラなどでオペラの演出を手がけている。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』『フィガロの結婚』『皇帝ティトゥスの慈悲』『イドメネオ』『魔笛』『リゴレット』『マクベス』『椿姫』『トスカ』『ドン・カルロ』『蝶々夫人』『ラインの黄金』『ワルキューレ』『ジークフリート』『カルメン』『真夏の夜の夢』『ばらの騎士』『ホフマン物語』『ねじの回転』『ビリー・バッド』『サロメ』などを手掛ける。今後の予定として、英国ロイヤルオペラで『コジ・ファン・トゥッテ』『アイーダ』の他、メトロポリタン歌劇場、シャンゼリゼ劇場などがある。新国立劇場初登場。

トリスタン：ステファン・グールド

Tristan : Stephen Gould

アメリカのヴァージニア州生まれ。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場などヨーロッパ各地の歌劇場で活躍。『フィデリオ』フロレスタン、『パルジファル』『ピーター・グライムズ』タイトルロール、楽劇「ニーベルングの指環」ジークフリート、などをレパートリーとする。今後の予定としては2010年にベルリン・ドイツ・オペラ『タンホイザー』タイトルロール、ウィーン国立歌劇場『さまよえるオランダ人』エリックと楽劇「ニーベルングの指環」（チクルス）、初登場のメトロポリタン歌劇場で『さまよえるオランダ人』と『ローエングリン』などに出演予定。新国立劇場にはこれまで『フィデリオ』フロレスタン、『オテロ』タイトルロールで出演。今回のトリスタン役は、ロールデビューとなる。

マルケ王：ギド・イェンティンス

König Marke : Guido Jentjens

ドイツのゲルデルン生まれ。ケルン音楽大学で声楽を学ぶ。これまでにザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、フランクフルト・オペラのほか、ベルリン、ミュンヘン、パリ、ブリュッセル、バルセロナなどヨーロッパ各地で活躍。バイロイト音楽祭にもたびたび出演している。『魔笛』ザラストロ、『後宮からの誘拐』オスミン、『フィデリオ』ロッコ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『トリスタンとイゾルデ』マルケ王、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ポーグナー、『パルジファル』グルネマンツ、『ラインの黄金』ファフナー、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『ばらの騎士』オックスなどをレパートリーとする。新国立劇場初登場。

トリスタンとイゾルデ

Tristan und Isolde / Richard Wagner

イゾルデ：イレーネ・テオリン

Isolde : Iréne Theorin

スウェーデン生まれ。デンマーク王立歌劇場の専属歌手として数多くの公演に出演。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ケルン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、モネ劇場などに出演。2008年バイロイト音楽祭にイゾルデ役で劇的なロール・デビュー。『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『ドン・カルロ』エリザベッタ、『オテロ』デズデーモナ、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『タンホイザー』エリーザベト、『ワルキューレ』ブリュンヒルデ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、『道化師』ネッダなど幅広いレパートリーを誇る。今後の予定としては、ザルツブルク音楽祭『エレクトラ』、ブダペスト、ベルリン、ミラノでブリュンヒルデ、イングリッシュ・ナショナル・オペラで『パルジファル』クンドリーなど。新国立劇場では『トゥーランドット』タイトルロールで初登場、10年『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデに出演予定。

クルヴェナール：ユッカ・ラジライネン

Kurwenal : Jukka Rasilainen

フィンランド生まれ。1986年ドルトムント歌劇場の専属歌手となり本格的に活動開始。これまでにウィーン国立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ・オペラ座、ローマ歌劇場、バイロイト音楽祭、エディンバラ音楽祭などに出演。『フィガロの結婚』フィガロと伯爵、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッロ、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピア、『ナブッコ』ザッカーリア、『フィデリオ』ドン・ピツァロ、『魔弾の射手』カスパール、楽劇「ニーベルングの指環」ヴォータンとさすらい人、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『カルメン』エスカミーリョ、『影のない女』バラク、『エレクトラ』オレストなどレパートリーは幅広い。今後の予定としては、2012年にダラスで『トリスタンとイゾルデ』などがある。新国立劇場には03年『ジークフリート』さすらい人、09年『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータンに出演。10年『ジークフリート』さすらい人に出演予定。

メロート：星野 淳

Melot : Hoshino Jun

北海道大学理Ⅰを経て、北海道教育大学札幌分校特設音楽科卒業。二期会オペラスタジオ第34期修了。修了時に優秀賞受賞。『フィガロの結婚』フィガロと伯爵、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールとレポレッロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモとドン・アルフォンソ、『魔笛』パパゲーノ、『リゴレット』タイトルロール、『椿姫』ジェルモン、『仮面舞踏会』レナート、『運命の力』ドン・カルロ、『メリー・ウィドウ』ダニロ、サン＝ブリオッシュ、『こうもり』ファルケなどに出演。最近では2007年『ダフネ』（新制作・日本初演）で大きな存在感を発揮した。新国立劇場には『カルメン』モラレス、『光』ミツダ、『セビリアの理髪師』フィオレッロ、『道化師』シルヴィオ、『愛怨』玄照皇帝、『黒船』吉田、コンサート・オペラ『ペレアスとメリザンド』ゴロー、『ヴォツェック』第二の従弟職人など出演多数。二期会会員。

ブランゲーネ：エレナ・ツィトコーワ

Brangäne : Elena Zhidkova

ロシア出身。ゲッツ・フリードリヒに見出されベルリン・ドイツ・オペラの専属歌手となり、以来ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイロイト音楽祭、エディンバラ音楽祭などに出演。『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『エウゲニ・オネーギン』オルガ、『トリスタンとイゾルデ』ブランゲーネ、『ラインの黄金』フリッカ、『神々の黄昏』ヴァルトラウテ、『タンホイザー』ヴェーヌス、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『青ひげ公の城』ユディットなどを歌っている。新国立劇場には2003年『フィガロの結婚』ケルビーノで初登場後、『カルメン』タイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『こうもり』オルロフスキー公爵、『ばらの騎士』オクタヴィアン、『ラインの黄金』『ワルキューレ』フリッカ、新国立劇場開場10周年記念オペラ・バレエ ガラ公演に出演。